

第2章 職業情報提供を基本にした精神薄弱 養護学校高等部の進路指導の例

－進路先を生徒自身で選択・決定することを大切にした進路指導－

第1節 進路指導と職業情報

1. 生徒自身の進路先決定を促す職業情報

知的に障害がある養護学校高等部の生徒達の進路は、社会の中であたりまえに過ごしていけるようにという生徒や保護者の願いから、企業就労が可能な生徒達にとって一般企業への就職は大きな目標である。しかし、まだまだ知的障害の生徒の雇用に理解がある企業数は少ない。そんなこともあって学校での進路指導は、どこの事業所で職場実習をしても学習が活かされるように、挨拶や返事といった働く態度やマナー、働き続けられる力等の育成に重点が置かれている。そして、もっとも基本になるはずの生徒自身が自分の職場実習先や進路先を選び、決定する指導があまりにもなされてこなかった。それは、先ほど述べた理由を含めて以下のような理由が考えられる。

- ア. 就職可能な企業数が少ないために生徒の希望がかなえにくいと考えられていたこと。
- イ. 知的障害がある多くの子どもは、自分の進路先の希望を言い表したり、選択することは難しいと考えられていたこと。
- ウ. 会社での障害者の受入れ体制や仕事内容を教員が判断して、その会社にあった生徒をあてはめていくという進路指導が従来の方法であったこと。

このために、生徒に進路希望や職種の希望を簡単には聞くが、むしろ親や学校で生徒の個性や適性を判断して、職場実習先や進路先を決めることが多かった。

そんな中で進路指導をしてきて、生徒から大きなショックを受けたことがあった。一つは、卒業生が母親と一緒に転職の相談に来たときの話である。人間関係がうまくいかなかったというのが転職の第一の理由であった。その相談の中で卒業生の彼女は、「今の会社は、先生とお母さんが決めたのよ。先生やお母さんが行けと言ったから行ってたの。」と何度も繰り返し言い続けていた。彼女のこの発言に、「とても良い会社なので紹介したのに、それはないだろう…」と少し反発を感じながらも大きなショックを受けた。またもう一つには、通勤寮面接に生徒を引率したときのことである。寮長さんが生徒に、「勤める会社は、どうやって決めたの。」という問いかけに、「実習をして、先生とお母さんで決めました。」と答えていた。その答えを横で聞きながら、学校の生徒に対する進路決定の指導のプロセスに何か抜け落ちているのではないだろうか考えるようになった。

この二人の生徒の発言を通して、知的に障害がある生徒達の職場実習先や進路先を、生徒自らどれだ

け選ぶ機会や選択肢が与えられ、自分で決定したんだという精神的なプロセスを大切にしてきたかという疑問を持つようになった。今までどこの実習先でも生かされるようにと言って重点を置いて指導してきた挨拶や返事、働く態度やマナー等も、この自分の進路先を自分で選び、決めたのだという思いが生徒の中にしっかりあれば、より生きた働く力となって、しっかりと生かされていくのではないだろうかと考えるようになった。そんな思いから、生徒が自ら自分の進路先を選択・決定したという精神的プロセスがあるように進路指導を見直し、理解しやすいような職業情報の内容と提供の仕方を工夫してきた。

2. 「進路の学習」の指導形態と進路行事

(1) 「進路の学習」の指導の形態

生徒自身で進路先を選択・決定するような進路の授業は、図2-1の「生活」という授業の中で指導している。この「生活」の授業は、学習指導要領の「職業」「家庭」に位置づけられている。後述する1・2年生での「職種」を作る授業等は、この「生活」の授業の中で単元を設定して指導している。また3年次になると、毎週の「生活」の授業の1時間を「進路の学習」の時間として、職場実習先の選択や実習の事前・事後学習等の指導をしている。

2年生

	月	火	水	木	金	土
学級	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム 全校朝会
1	体育	グループ	生活	作業	グループ	グループ
2	美音	音美	生活	作業	生活	ホームルーム
給食・片づけ・昼休み						
3	生活	学年活動委員会	ホームルーム	体育	そうじ ホームルーム	
	ホームルーム	そうじ ホームルーム		ホームルーム		
下校 (S・B)	3:20 (3:30)	3:20 (3:30)	2:00 (1:40)	3:20 (3:30)	3:00 (3:10)	11:30 (11:40)

3年生

	月	火	水	木	金	土
学級	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD	ABCD
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム 全校朝会
1	進路	生活	グループ	グループ	作業	クラブ
2	体育	生活	美音	体育	作業	ホームルーム
給食・片づけ・昼休み						
3	音美	学年活動委員会	ホームルーム	生活	そうじ ホームルーム	
	ホームルーム	そうじ ホームルーム		ホームルーム		
下校 (S・B)	3:20 (3:30)	3:20 (3:30)	2:00 (1:40)	3:20 (3:30)	3:00 (3:10)	11:30 (11:40)

図2-1 高等部2年生の時間表

(2) 進路指導の3年間の概略

高等部3年間の進路指導の概略は表2-1のようになっている。

表2-1 高等部3年間の進路指導の概略

		1年次	2年次	3年次
	月	進路行事・学習	進路行事・学習	進路行事・学習
1 学期	4			職安見学・面接
	5	家庭訪問週間（進路希望）	家庭訪問週間（進路希望）	職場実習先面接 実習前作業
	6	実習激励会参加	実習激励会主催	通勤練習・実習激励会 第一期職場実習（2週間）
	7			実習反省会 三者面談
2 学期	9			先輩の話を聞く会 実習先面接
	10	実習激励会参加	実習激励会主催 校内実習	実習前作業 通勤練習・実習激励会
	11		授業「身のまわりの人々の仕事」	第二期職場実習（2・3週間） 第二期職場実習延長実習
	12	実習報告会参加	一日社会見学実習Ⅰ 実習報告会参加	実習反省会・通勤寮見学 実習報告会・福祉事務所見学 三者面談
3 学期	1	授業「家族の仕事を調べよう」		第三期職場実習（2週間）
	2	社会見学（企業・福祉作業所・生活実習所見学）	一日社会見学実習Ⅱ	
	3	進路先報告会	三者面談 進路先報告会	先輩の話を聞く会 進路先報告会

第2節 仕事紹介の職種の構成

1. 仕事の内容の理解を助ける職業情報

職業情報の内容には、大きく分けて2つある。1つには、生徒自身が卒業後就きたいという職業の種類やその仕事内容についての情報である。また、もう1つには、職業人として必要な働く態度等の働くマナーについての情報である。ここでは、前者の職業の種類や仕事の内容についての職業情報について述べる。

生徒達の職種の希望は、当然と言えば当然なのだが、仕事の内容に対する希望に集中される。それは、どんな物を作る仕事であるとか、どんな物にかかわっている仕事であるというような希望の出し方である。一般的な給料や勤務時間、福利厚生といった情報より、自分の仕事は何になるのか、何にかかわっているのかが、生徒達の働きがいにつながっているのである。そういったことが生徒に理解できるような職種の紹介や仕事内容の職業情報の提供が必要である。知的に障害がある生徒にとって、自分の進路先を自分で選択・決定できるようにする職業情報の提供の仕方は、知的に障害がある生徒の仕事に対するイメージや理解の仕方を情報援助側がまず理解して、次に生徒が理解しやすい表現(情報)で丁寧に指導する工夫が必要である。

2. 既成の仕事紹介ビデオの問題

(1) 職種名のわかりづらさ

仕事の種類や仕事の内容を紹介した教材は多くある。公共職業安定所で貸出をしている仕事紹介のビデオや日本障害者雇用促進協会の「職業ガイド」のビデオ等も今まで利用してきた。しかし、これらの教材は、知的に障害がある生徒達に理解しづらい点がいくつかある。

現在使われている職種紹介の職種の一例の一部を紹介する。

- ・専門商社
- ・総合商社
- ・地方公務員
- ・国家公務員
- ・物流
- ・建設
- ・金融
- ・旅行
- ・小売
- ・製造
- ・通信
- ・印刷
- ・情報処理等

これらの職種名1つひとつあげてみても、生徒達が仕事内容についてイメージを持ちにくいものが多い。たとえば、「製造」という言葉にしても、私達教員は使い慣れている職種名の言葉であるが、生徒達にとってみれば日常的でなく、仕事内容のイメージがつかめないことがわかった。そして生徒達は、「製造」という言葉を憶えるだけで、その仕事の内容まで理解が至っていない。また、職種名が細分化されすぎていて、ある意味で選択肢の幅が広すぎることも生徒達の理解を妨げている。日本障害者雇用

促進協会によって制作された「職業ガイド」ビデオも、全部見るのに相当な時間がかかる。知的に障害がある高等部の生徒は、ある程度自分の希望する職種を絞ってから、その職種に関するビデオを見ると利用の仕方ができないので、もっと職種を簡素化して、短時間で全職種が見られるビデオのほうがより効果的である。

そんなことも含めて、もっと生徒達がわかりやすく、仕事の内容についてイメージを持ちやすい職種名を構成しなくては、生徒達が選んだり希望をだせるような情報にならないことがわかった。

(2) 仕事内容の問題

既成の仕事紹介ビデオの仕事内容にも、知的に障害がある生徒の教材としていくつかの問題がある。その問題を整理すると次のようなことが代表的な問題になる。

- ア. 知的障害者が実際に従事しているような仕事場が紹介されていない。
- イ. 紹介されている情景のスピードが速すぎたり、変化がありすぎてわかりづらい。
- ウ. 仕事上の適性・必要とする力等が説明されていない。

このア.の知的障害者が実際に従事しているような仕事場が紹介されていない問題が、一番中心的な問題である。たとえばレストランの仕事では、調理をしている場面が中心の仕事の紹介であって、実際に卒業生の多く働いている食器の洗浄の仕事の場面がほとんど紹介されていない。レストランで調理をする生徒は全くいないわけではないが、実際には食器の洗浄の仕事が主になるので、そこを中心としたビデオの制作が必要になる。他の職種においても同じようなことが言える。

また、イ.「紹介されている映像のスピードが速すぎて、生徒が何の仕事をしているのか理解する前に映像が流れていってしまいわかりづらい」というのも問題である。さらに、紹介されている仕事をするためには、「立ち仕事なので体力が必要である」とか、「食べ物の仕事なので、手や体を常にきれいにする必要がある」といった、その仕事をするうえで必要とされる基本的な力が説明されていないことも問題がある。このようなそれぞれの仕事に必要な力等が整理されて説明されていると、生徒達にとって仕事を選ぶ基準になる。

3. 生徒と一緒に職種を作る

(1) 1年次「家族の仕事を調べよう」の授業

現在ある仕事紹介のビデオを活用しながら、知的に障害がある生徒達が理解しづらいいくつかの問題が明らかになってきた。そこで、知的に障害がある生徒達が理解しやすい仕事紹介のビデオを作る必要を感じた。そのためには、まず職種にあたる仕事の分類を工夫することにした。その分類は、既成の職種である分類の仕方にとらわれず、生徒達の仕事に対する理解や表現に基づいて仕事の種類を分類することにした。

生徒達と一緒に仕事の種類を分類するために、まず1年次「家族の仕事を調べよう」の授業を計画した。この授業では、次のようなねらいがある。

ア. 家族がどんな仕事をしているかを知る。

イ. 社会には、どんな仕事があるか関心を持つ。

ウ. 仕事には、似ている仕事があることを知る。

この授業で、生徒1人ひとりが家族の仕事を調べ、表2-2のようなカードに記入させた。

表2-2 家族の仕事調べカード

家 族	仕事先（何をしている会社か商店か）	仕 事 内 容
〈例〉父 母	印刷会社 スーパー	機械を使ってカレンダーを印刷する。 品物を並べる。またはレジをする。

仕事の中には、知的に障害がある生徒にとって理解しづらいものもある。そこで家族の人に協力をしてもらい、子どもに理解できるように仕事内容の話をしてもらった。例えばビルの中でしている父親の仕事は、実は「病院に機械を売る仕事をしているんだ」というようにくだけて話をしてもらった。そして、そのカードを参考にしながら1人ひとりが全体の授業の中で発表をした。発表を聞きながら、教員がその仕事内容を要約して簡単に大きく紙(図2-2)に書いて黒板に貼っていった。

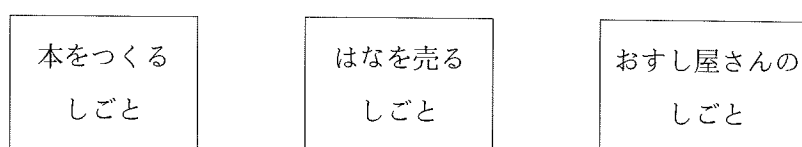


図2-2 発表したしごと

黒板に貼られた仕事のカードは、46枚にもなった。黒板に貼られた46枚のカードを見て、生徒達から、「たくさんの仕事があるんだ」「いっぱい仕事があるね」「〇〇君と僕の家の仕事は同じだ」「…」等々。そこで、教員が「同じ仕事は集めて、くっつけてみよう」と問いかけると、感想ででてきたように「〇〇君と僕の家は、そば屋だからくっつくよ」という意見がでてきてカードがくっつく。また、「〇〇ちゃんと私の家は、同じパーマ屋さんだからくっつく」といった具合にカードがいくつかくっついていく。「そば屋」の集まり、「美容院」の集まりというように同じ仕事がかくっついた後に、それでは「似ている仕事はないかな。似ている仕事もいっしょに集めてくっつけてみよう」と問いかけると、「〇〇さんの家のうなぎ屋さんとそば屋さんは、似ているよ」という意見がでてくる。そこで、「同じように作って

食べてもらう仕事だから似ているね」という話になって一塊になっていく。このような生徒達からの「似ているよ」という意見にそって、仕事のカードが大きなくつかのまとまりになっていった。

この授業で、生徒達が調べてきた46の仕事は、

・物を作る仕事 ・売る仕事 ・作って食べてもらう仕事(食堂・レストランの仕事) ・先生の仕事と
いった大きなかたまりと、その他の整理されないカードといった具合になった。

この「家族の仕事を調べてみよう」の授業では、生徒と一緒に職種を作るための最初の授業なので、生徒の仕事に対するイメージを基本にしなが、そのイメージにそって大まかな整理にとどめた。いくつかの整理されないカードは、無理に分類して職種を作りあげようようなことは1年次ではしないことにした。この授業で、よく知っている家族がどんな仕事をしているのかを調べることで、仕事について関心を深め、種々な仕事があることが理解することができた。また、似ている仕事があることを多少知ることができ、職種の分類を作る基本となった。

(2) 2年次「身のまわりの人々の仕事」の授業

2年次の「身のまわりの人々の仕事」の授業(資料1)で、1年次の「家族の仕事を調べてみよう」の授業を発展させ、生徒と一緒に仕事の分類を作りあげている。

この授業のねらいは次のとおりである。

ア. 仕事は、いくつかの種類に分けられることを知る。

イ. 分類した仕事の中から、自分のやってみいたい仕事の希望をだす。

この授業では、1年次と同じように家族や自分の知っている身のまわりの人、3年生の職場実習先の仕事を調べ、同じような仕事を集めてくっつけていった。1年次のように大まかに集めるのだが、2年次では、調べてきたカードをすべて分類して、分類した理由を考えていった。この分類した仕事の種類が「職種」になり、分類した理由が「職種名」となっていた。

例えば、時計を作る工場に勤めている父親の仕事と家を作る大工の父親の仕事は、作る仕事で似ているということでカードを集め、「作る仕事」ということで命名した。また、スーパー等の仕事のカードは、「売る仕事」ということで分類・命名した。うなぎ屋さんやそば屋さん、ファミリーレストランの仕事は、「作って食べてもらう仕事」ということで分類したが、「レストランの仕事」という方がいいという生徒の声があり、「食堂・レストランの仕事」とした。この中に、お弁当屋さんの仕事は、「作る仕事」の仲間か「食堂・レストランの仕事」の仲間か悩んだが、「作ったところで食べなくちゃ…」という意見に押されて、お弁当屋さんの仕事は、「作る仕事」の仲間に移されたということもあった。

美容院の仕事やクリーニングの仕事は、「きれいにする仕事だね」ということで、そうじの仕事のカードと合わせて「きれいにする仕事」として分類した。生徒の中にお父さんがタクシーの運転手さんが何人かいた。タクシーの運転手は、何の仕事の仲間かなと考えた。「タクシーの運転手さんは、〇〇さんの運送屋さんの仕事に似ているよ」ということで、タクシーの仕事と運送屋さんの仕事を一緒にした。

資料1

2年進路の授業

『身のまわりの人々の仕事』その2

－ 1日社会見学実習に向けて－

設定にあたって

前回の『身のまわりの人々の仕事』の授業で、なぜ校内実習をしたのかを考えながら、卒業後は仕事を中心の生活になることを学んだ。そして、自分の家族がやっている仕事を調べてみることで、社会にはいろいろな仕事があることを知った。今回は、前回の授業で宿題にだされていた家族の仕事のカードから、さらに様々な仕事をあげさせ、それらの仕事が多様な種類ごとに分けられ・まとめられることを学ばせたい。そして、その仕事の分類から、自分がやってみたい仕事の希望をださせ、一日社会見学実習につなげていきたい。

日 時 11月2日(水) 1・2限

場 所 集会室・各教室

学習生徒 2年生徒全体 (計33名)

学習計画	●身のまわりの人々の仕事 ①(家族の仕事)	10/29
	○身のまわりの人々の仕事 ②(仕事の分類)	11/2(本時)
	●一日社会見学実習での仕事①(行事の内容と仕事内容の希望)	11/4
	○一日社会見学実習での仕事②(自分・友達の体験先・実習日誌の準備)	11/18
	●一日社会見学実習での仕事③(自分・友達の体験先・まとめ)	11/25

本時の学習

- I. ねらい
- 身のまわりの仕事は、いくつかの種類に分けられることを知る
 - 分類した仕事の中から、自分のやってみたい仕事の希望をだす

II. 本時の授業展開

	指 導 内 容												
導 入	<p>1. 前回の授業であげた家族の仕事を思い起こす</p> <p>前回の授業で出た仕事の紙を張り出しながら、誰の家族の仕事か思い起こす</p> <p>2. 前回の授業ででなかった仕事をあげてみる</p> <p>宿題になっていた「家族の仕事」のカードを見ながら、前回にでてこなかった仕事をあげてみる。新たにでた仕事は、紙に書いて貼り出していく</p>												
展 開	<p>3. 同じような仕事のカードを集めてみる</p> <p>例：</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>はなをうる しごと</td> <td>くすりをうる しごと</td> <td>クリーニング のしごと</td> <td>びょうしつ のしごと</td> <td>レストラン のしごと</td> <td>うなぎ屋 のしごと</td> </tr> <tr> <td>デパートで服 をうるしごと</td> <td>ほうせきを うるしごと</td> <td>ビルそうじ のしごと</td> <td>おすしの しごと</td> <td>そば屋 のしごと</td> <td></td> </tr> </table> <p>4. 集まった仕事のカードごとに、どんな仕事で集めたのかを考え、仕事の種類名を考える</p> <p>前回の生徒の発言からでた仕事の分類のめやす</p> <ul style="list-style-type: none"> 作る仕事 食堂・レストランの仕事 仕分けの仕事 売る仕事 人のお世話をする仕事 運ぶ仕事 事務の仕事 役所の仕事 きれいにする仕事(そうじ、クリーニング、美容室・床屋) <p>5. 自分はどの種類の仕事がしたいか考える</p> <ol style="list-style-type: none"> どの種類の仕事がしたいか考える 選んだ種類の仕事の中で、具体的にどんな仕事がしたいか考える <p>例…「売る仕事」——何を売る仕事がしたいのか具体的に 「人のお世話をする仕事」——看護婦さん・保母さん等</p> <p>6. 一日社会見学実習で仕事を実際に体験できることを知る</p>	はなをうる しごと	くすりをうる しごと	クリーニング のしごと	びょうしつ のしごと	レストラン のしごと	うなぎ屋 のしごと	デパートで服 をうるしごと	ほうせきを うるしごと	ビルそうじ のしごと	おすしの しごと	そば屋 のしごと	
はなをうる しごと	くすりをうる しごと	クリーニング のしごと	びょうしつ のしごと	レストラン のしごと	うなぎ屋 のしごと								
デパートで服 をうるしごと	ほうせきを うるしごと	ビルそうじ のしごと	おすしの しごと	そば屋 のしごと									
ま と め	<p>クラス指導</p> <p>7. 自分のやりたい仕事の種類の希望をだす</p> <p>※あまり現実にとらわれず、自由に希望をださせて下さい。</p> <p>8. 選んだ種類の仕事の中で、具体的にどんな仕事がしたいか希望をだす</p>												

何という仕事の仲間名にしようかと考えた。「運送屋さんは、荷物を運ぶ仕事だし、タクシーは、人を運ぶ仕事だから、運ぶ仕事がいいよ」と言う意見がでて、「運ぶ仕事」ということになった。その話を聞いていた生徒が、「それじゃ、郵便屋さんも運ぶ仕事だ」とのこと。また、配送センターで働いている兄弟を持つ生徒がいた。そこで、配送センターでの仕事もとても運送屋さんの仕事に似ているので「運ぶ仕事」の仲間に入れようとしたが、直接に運んでいるわけではないので、その生徒にとって「運ぶ仕事」の仲間ではしっくりこないようである。本の流通センターで働いている家族を持つ生徒もいた。話を聞くと、それぞれの書店等に本を分けている仕事をしているようである。運ぶ準備をしているということで「運ぶ仕事」の中に入れていいなと思ったが、生徒達の意識が「運ぶ」ことに直接イメージがつかないようだったので、「配送センターの仕事」と名づけようとした。しかし仕事の内容は、分けることが主な内容だったので、「仕分けの仕事」にしようということになった。この「仕分けの仕事」は、命名の時に苦労したように、この後、生徒にとってイメージが持ちにくい職種になってしまった。その他に、母親が保育園で働いていたり、養護施設から登校している生徒から、保母さんの仕事や施設の先生の仕事があげられた。似ている仕事ということで、教師や看護婦さんの仕事のカードが集まった。そして、これらの仕事は、「人のお世話をする仕事」ということに命名した。

父親が区役所に勤めている、会計士をやっているという生徒がいた。その他にも内容がよくわからないがパソコンを使って仕事をしているというカードが何枚か集まった。生徒の中にパソコンが大好きでパソコンを使った仕事をしたいという希望がある生徒から、「事務の仕事がいいんじゃない」という意見がでて、「事務の仕事」ということにした。この「事務の仕事」は、どんな仕事にも必ずある。「作る仕事」にも「売る仕事」にも必ずあるので、直接的に「売ること」「作ること」にかかわっている仕事は、「売る仕事」、「作る仕事」の分類の中に入れることにした。そうではなく、全くのデスクワークでコンピューターを使っての仕事は、「事務の仕事」の分類の中に入れることにした。例えば、3年生の先輩の職場実習先にコンビニエンスストアの本部で商品のデータ入力をする生徒がいた。このコンビニの商品のデータ入力の仕事は、生徒達から見ると「売る仕事」ではなく「事務の仕事」のイメージになるからである。

以上のような8つの仕事の分類を作った。その後、「私は、ダンサーとか女優になりたいんだけど…、どの仕事かな」という生徒がいた。「あっ」と驚いたが、このことを生徒に問い返すと、「芸能界の仕事だよ」と言う。この職種を生徒に提示しても良いものかどうか迷いながらも、「芸能の仕事」という職種を作って、以下の9つの職種の分類を作った。

- | | | | | |
|---------|----------|--------------|------------|------------|
| • 作る仕事 | • 売る仕事 | • 食堂 | • レストランの仕事 | • きれいにする仕事 |
| • はこぶ仕事 | • しわけの仕事 | • 人のお世話をする仕事 | • 事務の仕事 | |
| • 芸能の仕事 | | | | |

4. 生徒と一緒に仕事を分類する大切さ

(1) イメージのしやすさ

この9つの職種は、大変あいまいなものである。しっかりした分類とはとても言えない。例えば、以下のようないくつかの矛盾がある。

ア. レストランの食器の洗浄の仕事は、「きれいにする仕事」の中になぜ入らないのか。

イ. 「食堂・レストランの仕事」に含まれるハンバーガーショップの仕事は、なぜ「売る仕事」の中に入らないのか。

ウ. 配送センターの「仕分けの仕事」は、やはり「はこぶ仕事」に含まれるのではないか。

エ. 事務の仕事は、どの程度の仕事内容を指すのか。例えば、「役所」の仕事は「事務の仕事」の分類に入れていいのか。

多くの問題がある。しかし、従来の職種ではわかりずらかった仕事の種類名が、生徒と一緒に仕事を分類し、職種名を作るプロセスを踏むことによって、生徒の中に大まかな職種と仕事内容のイメージができ、希望をだしやすくなったことは確かである。またこの授業では、文章では表現しきれない、生徒の仕事に対する思いがわかる楽しい授業であった。先に述べたように、知的障害がある生徒における情報援助技術は、まず初めに生徒の表現や物事の認識の仕方を理解して、次に生徒がわかりやすい、伝えやすい表現を作ることが大切である。そういった意味で、生徒達と話し合いながら生徒自身の表現で職種を作ると、生徒にその仕事内容についてイメージが広がり理解が深まる。今までのように、ただ単に職種を教員側から提示して教え込ませるのではなく、生徒のそれぞれの仕事内容についての捉え方やイメージを理解し、生徒の理解で仕事の特徴を分類し、生徒の言葉で職種名を作ることが大切である。そういう過程を踏むことで、仕事に対する大まかな種類を知り、その種類の中から自分のやりたい仕事を選ぶ選択肢ができ、希望がだしやすくなる。

(2) 生徒と作った仕事の分類を大切に

生徒達と作った仕事の分類に基づいて、その仕事内容をより幅広く、深く理解できるように仕事紹介のビデオを作成することにした。その仕事紹介の職種は、前述した以下の9つである。

- ・作る仕事
- ・売る仕事
- ・食堂、レストランの仕事
- ・きれいにする仕事
- ・ものはこぶ仕事
- ・しわけの仕事
- ・ひとのお世話をする仕事
- ・事務の仕事
- ・芸能の仕事

知的に障害がある生徒達の職業選択のビデオとして、上記の職種は適当であるかどうか多少問題とした。たとえば「事務の仕事」では、商品入力の仕事ということで就職した生徒が何人かいたのでそれほど問題にしなかったが、「ひとのお世話をする仕事」と「芸能の仕事」については、実際に生徒の選択肢として提示をしていいものかどうか疑問を感じた。進路先の選択肢として提示をしておいて、実際に

は実習先すらなく実現不可能なものとしたら、あまりにも無責任であると感じたからである。悩んだ結果、授業で生徒があげた仕事の種類を、教員の判断で就職が不可能であるとか、就職先として適当でない勝手に決めて、選択肢をなくしてしまうのは問題だと考えた。

5. 9つの仕事を20分程度で紹介

前述したように、多くの仕事紹介のビデオは何本かに分かれて構成されている。そして利用する人が、自分の関心がある職種や仕事内容が入っているビデオを選んで見ることが多い。本校の生徒は、まだ自分が何の仕事に関心があるのかがしっかりと整理されていないので、9つの仕事が全般的にわかる簡素化されたビデオが必要である。そして、集中して見るためにも20分位が適当だと考えた。

6. 卒業生の実習先・進路先のビデオから仕事内容を編集

ビデオの内容は、3年次の職場実習の時に撮影させていただいた最近5年間のビデオから編集することにした。そのことによって、従来の仕事紹介のビデオの問題であった、紹介される仕事内容が実際に生徒が従事する仕事と異なることがないようにしたかったからである。また、卒業生の実習の様子からビデオを編集することによって、仕事の内容を絞ってゆっくり紹介できるので、今までの仕事紹介のビデオでの生徒の理解の障害であった、仕事の様子の映像が速く、仕事の場面変化が激しく理解しづらいという問題を多少なくすることができた。たとえば、「食堂・レストラン」のビデオでは、従来のビデオだと接客・調理・洗浄・会計といった仕事内容の全体が紹介されていたのだが、このビデオでは食器の洗浄の仕事場面が中心の内容になった。同じように「売る仕事」のスーパーでは、商品の包装・値札付けのような品だし準備と品だしの仕事場面の内容になった。また、前述した「ひとのお世話をする仕事」と「芸能の仕事」は、今までに就職した卒業生がなく、ビデオがないということで仕事の種類のタイトル名のみにした。

そのビデオは、表2-3に示すような仕事内容を紹介した。

このビデオを見た生徒は、自分の知っている先輩の働いている様子が映しだされると口々に「○○君だ!!○○君が映っている!!」「○○さんだ!!○○さん、がんばっているね!!」と言いながら、先輩の働いている様子を興味深くくいいように見ている。生徒達は、自分たちと一緒に学校生活を送ってきた先輩が働く姿の映像に、自分を重ね合わせて共感を感じながら見るのだろう。また、一緒に遊んだり、スポーツや学習をした卒業生だと、生徒達にもその先輩の様子や働く力等がなんとなく想像できるのか、「○○君のやっている仕事やってみたい!!」「○○さんができているなら、私もできるんじゃないかな…」という判断をする生徒もいた。こんな生徒の言葉を聞くと、知っている先輩の働く様子から自分の進路先を考えるという情報の活用の仕方があるのかと考えさせられた。

しかし、このビデオを作りながらいくつかの問題を感じた。それは、生徒達の仕事の分類にそって可

能な限りの仕事の内容を紹介して、選択肢を増やしてあげたいと考えたが、結局のところ今までの進路先の紹介にとどまっていて、その映像は、生徒達が言葉に表現しない(できない)仕事に対する憧れや夢みたいなものに答えていないのではないかという疑問である。職業情報をしっかりと生徒に届くようにと考えてきた実践であるが、その職業情報の仕事内容が現実には捉らわれすぎていて、情報が提供側の思いであまりにも幅が狭いものになっていないかということである。仕事紹介のビデオを作りながら、もっと知的に障害がある生徒達の仕事への憧れや夢をつかみ、大切にして、その生徒の思いに答えられるように職場開拓や社会啓蒙をしながら、仕事の紹介のビデオを作っていくかとは強く感じている。

表 2-3 見のまわりの人々の仕事—先輩たちの進路から

職種のタイトル	仕事内容のタイトル	映像の内容
作る仕事	本を作る	製本会社で本の検品をしている
	ケーキを売る	ケーキを入れるケースを洗っている
	車の部品を作る	自動車の部品を組立てている
	お弁当を作る	コンベアの上を流れるおにぎりに値札のシールを貼っている
	鉄板を作る	機械を操作しながら鉄板に穴をあけている
	和菓子を作る	お菓子の箱詰めをしている
売る仕事	スーパーマーケット	野菜をラッピングしている 野菜を切って袋に入れている
	食堂・レストランの仕事	ファミリーレストラン 食器を洗っている 学生食堂でコンベアに流れてくる食器の洗浄
きれいにする仕事	ハンバーガーショップ	ハンバーガーを作っている
	クリーニング	機械でシャツやタオルにアイロンがけしている
	ビルそうじ	廊下をモップで拭いている
	電車そうじ	電車の車両内を雑巾で拭いている
	車そうじ	洗車をしている
鳥かごそうじ	鳥かごをそうじしている	
はこぶ仕事	社内郵便	社内郵便をくばっている
しわけの仕事	タイルの仕分け	タイルを仕分けて梱包をしている
	ボルトの仕分け	ボルトを長さごとに分けている
	事務用品の仕分け	伝票を見て必要な事務用品をそろえている
事務の仕事	(タイトルなし)	パソコンを使って商品入力をしている
人のお世話をする仕事	(タイトルなし)	(映像なし)
芸能の仕事	(タイトルなし)	(映像なし)

7. 職種ごとに必要な力を考える

仕事に対する必要な力を知り、自分に適しているかを考えることは、職業選択で大切なことである。このビデオでの仕事の種類で、仕事上で必要とされる力を2-4のように簡単に整理をした。しかし、知的に障害のある生徒達の仕事は、専門職にはなかなか就けないので、仕事上で必要とされる力は基本的なものになり重複する事項が多くなっている。

表2-4 職種名及びその職種で必要とされる力

職種名	仕事上で必要とされる力
作る仕事	立ち仕事ができる体力、手先の器用さ、機械の操作方法・手順の理解 危険の認知
売る仕事	立ち仕事ができる体力、手先の器用さ、清潔・衛生面への気配り 包丁が使える
食堂・レストランの仕事	立ち仕事ができる体力、清潔・衛生面への気配り、洗浄器等の機械の 操作方法の理解、流れ作業への適応、仕事の手順の理解
きれいにする仕事	立ち仕事ができる体力、タオルや服の裏表・上下等の理解 モップ・ほうきが使える、雑巾がけができる
はこぶ仕事	立ち仕事ができる体力、はい立ちの時間・場所の理解、重いものが持 てる
しわけの仕事	伝票を読み取れる、商品の違いが分かり分類できる、商品の配置場所 の理解、立ち仕事ができる体力、重いものが持てる
事務の仕事	パソコンの使い方の理解、伝票を読み取れる

ビデオを見せながら、仕事をする上で必要な力や注意事項を簡単に整理して説明をした。時には画像を止めて、仕事をやり続けるためにはどんな力が必要か生徒に考えさせた。このことによって、仕事への理解を深められるばかりでなく、生徒自身の職業上の自己理解も深まった。

8. 目的を変えたビデオの活用

目的を変えながら仕事紹介のビデオを生徒に見せていった。それは、次のようなねらいがあった。

- (1) 仕事の種類、内容を知る

- (2) それぞれの仕事に対する必要な力を考える
- (3) 仕事の種類（職種）を選ぶ
- (4) 仕事の種類の中から具体的な仕事内容の希望をだす
- (5) 再度、それぞれの仕事に対する必要な力を考える
- (6) 再度、仕事の種類・内容の希望をだす

こういったねらいで繰り返し見ながら考えさせていくことによって、生徒達は、少しずつ自分のやってみたい仕事を選択し、決定していくことになる。しかしこの過程には、やはり保護者や教員のアドバイス等も大切な情報として考えていかななくてはならない。

第3節 職種及び仕事内容の選択

— 2年の一日社会見学実習での選択 —

1. 見学実習先の選択でみんなが悩む進路の授業

「身のまわりの人々の仕事」の授業で、生徒の仕事に対する理解にそって職種を作り、その職種の中からビデオ等を参考にしながら自分のやりたい仕事の職種を選び、仕事の具体的な内容の希望をださせてみた。実際に2年生の一日社会見学実習の進路行事で、この学習を生かして実習先を選び、体験することになる。2年生での一日社会見学実習には次のようなねらいがある。

- ・仕事に対する夢をはぐくむ
- ・仕事を種類ごとに分けられることを知り、自分の見学実習先を選んでみる
- ・自分のやりたい仕事を体験してみる
- ・友達の見学実習先を知り、自分の進路の選択肢をふやす

一日社会見学実習では、授業ででてきた生徒のやりたい仕事の職種や仕事内容の希望にそって進路担当は体験先を探している。だいたい希望の体験先がそろってきたところで、資料2のような授業を行い体験先を選び・決定する学習をする。この授業では、黒板に9つの職種がそれぞれ大きく書かれているカードが用意されている(図2-3)。

つくる 仕事	うる 仕事	食堂・ レストラン の仕事	きれいに する 仕事	はこぶ 仕事	人のおせわ をする 仕事	しわけの しごと	じむの 仕事	げいのう の仕事
-----------	----------	---------------------	------------------	-----------	--------------------	-------------	-----------	-------------

図2-3 いろいろな仕事のカード

資料 2

2年進路の授業

『一日社会見学実習での仕事』

設定にあたって

『身のまわりの人々の仕事』の授業で、自分たちの身のまわりの人々の仕事が大きな種類ごとに分けられ・まとめられることを学んだ。そして、その仕事の分類の中から、自分がやってみたい仕事を考えてみた。

今回の授業は、それぞれの仕事の種類の内容のビデオを見て、自分の希望する職種をもう一度考えさせはっきりとさせる。そしてその仕事の種類の中で、一日社会見学実習が可能な事業所を知り、自分のやりたい仕事を選ぶ経験をする。

日 時	11月4日(金) 1・2限	
場 所	集会室・各教室	
学習生徒	2年生徒全体 (計33名)	
学習計画	●身のまわりの人々の仕事 ①(家族の仕事)	10/29
	○身のまわりの人々の仕事 ②(仕事の分類)	11/2(本時)
	●一日社会見学実習での仕事①(行事の内容と仕事内容の希望)	11/4
	○一日社会見学実習での仕事②(自分・友達の体験先・実習日誌の準備)	11/18
	●一日社会見学実習での仕事③(自分・友達の体験先・まとめ)	11/25

本時の学習

- I. ねらい
1. 分類した仕事の中から、自分のやってみたい仕事の種類の希望をだす
 2. 希望をだした仕事の種類の中の実習可能な事業所を知り、自分の実習先を選ぶ
 3. 友達のやりたい仕事の希望を知る

II. 本時の授業展開

指 導 内 容	
導 入	<p>1. 仕事は、いくつかの種類にまとめられることを思い起こす</p> <p>前回生徒と作った仕事の分類名が書かれた紙を黒板に貼っていく</p> <p>仕事の分類の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作る仕事 ・食堂・レストランの仕事 ・仕分けの仕事 ・売る仕事 ・人のお世話を する仕事 ・運ぶ仕事 ・きれいに する仕事(そうじ、 クリーニング、 美容室・床屋) ・芸能の仕事 <p>2. 仕事の分類(仕事紹介)のビデオを見る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① それぞれの仕事の種類の仕事の内容を知る ② それぞれの仕事に対する必要な力を考える
展 開	<p>3. 自分は、どの種類の仕事を希望するか発表する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① どの種類の仕事がしたいか一人一人発表し、自分の名前 の紙を希望する仕事の種類の 名の下に貼っていく ② 選んだ種類の仕事 の中で、具体的に どんな仕事が したいか発表する 例: 「売る仕事」—— 何を売る仕事が したいか発表する 「人のお世話を する仕事」—— 看護婦さん・ 保母さん等 <p>4. それぞれの 仕事の種類の 中の、実習 可能な事業 所の名前と 仕事内容等 を知る</p> <p>事業所名、 仕事内容が 書かれた カードを、 紹介した 後にその 職種名が 書かれた 紙の下に 貼っていく</p> <p>5. 実習可能な 事業所の中 に希望して いる仕事 があるか 考えてみる</p> <p>6. 自分の やって みたい 事業所 を選ぶ</p> <p>一人一人、 自分の 希望する 事業所の カードに、 自分の 名前の 紙を 貼っていく</p>
ま と め	<p>7. 自分の 選んだ 実習先 を 発表する</p> <p>※選 びと れな か つた 生 徒 は、 ク ラ ス で 個 別 に 相 談 す る</p>

そして生徒は、希望する仕事の種類のカードの下に、自分の名前の紙を一人ひとり貼らせていく(図2-4)。

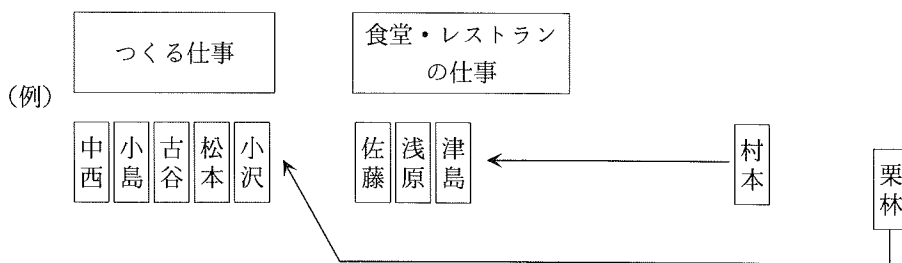


図2-4 仕事カードと自分の名前のマッチング

障害によっては、はっきりと選択できない生徒もいるが、様々な援助をしながら、自分で決めたんだという思いを大切にするように選択させて貼らせていく。なかには、『身のまわりの人々の仕事』の授業でだした希望の職種と違った生徒もいて、会社を探している進路担当教員をドキドキさせた生徒もいた。そんな生徒の迷いを受けとめながら次の授業では、9つの種類ごとに、見学実習をさせてもらえる会社と仕事内容を発表した。発表しながら、会社名と仕事内容を書いた紙を、その職種のカードの下に貼っていった(図2-5)。

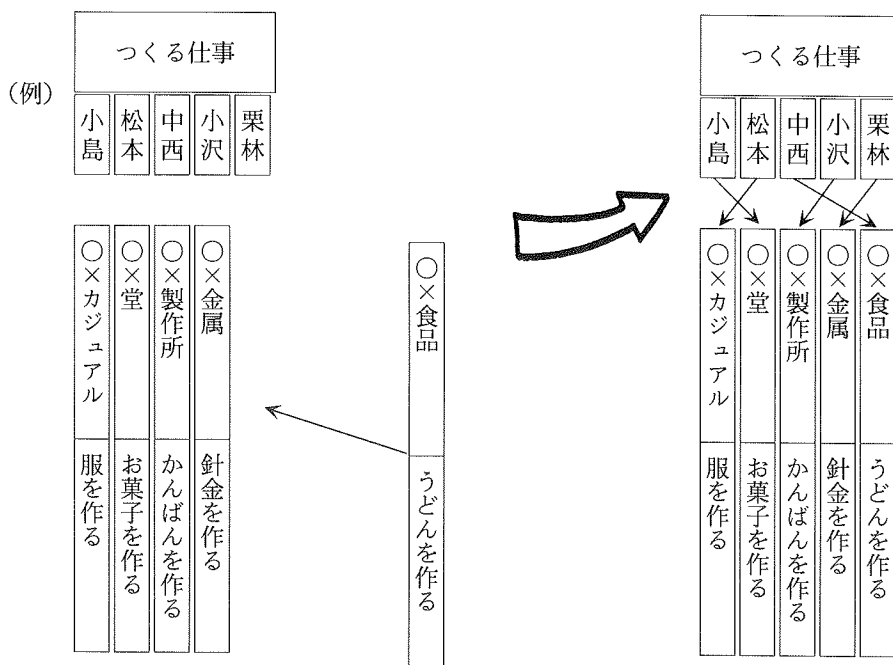


図2-5 仕事と仕事の内容

そうすると、「ミシンを使う仕事なら私の希望する会社だ!!」「クリーニングの会社なら僕だ!!」「僕は、CDを作っている会社がよかったからあの会社だ!!」「あの会社は、〇〇さんの希望していた会社だ」と生徒達は口々に言い出していた。多くの生徒は、自分の希望する会社を選びとっていた。また、

希望を言い表せない生徒達には、まわりの生徒が「あの会社が〇〇さんにいいよ!!」と意見をだしていた。そんな中で、とても悩んだ生徒もいた。希望が変わってしまう生徒である。でも、授業の中で自分の気持ちをはっきりさせていったり、自分にあっている仕事かを考える中で、一人ひとりの生徒達が「この見学先は、自分で決めたんだ（選んだんだ）」という思いで一日見学実習先の決定ができていた。授業後には、実習先を悩んだ生徒も「先生、がんばるね!!」とはりきっていた。

このような形で、生徒に一日社会見学実習の実習先を選ばせることには、幾つかの不安があった。それは、生徒の希望が特定の企業に集中したらどうしよう。保護者や生徒が、仕事内容から考えて絶対に無理な事業所を希望してきたらどうしよう、というような不安である。しかし、期待外れというほどそのようなことはなかった。特に、絶対に無理な（できそうでない）企業に生徒が希望してきたら、とにかく生徒のやる気と希望をつぶさないために、挑戦させようと考えていた。仕事に対応できそうもない場合は、教員が一日一緒について働けばいいと考えていた。また、学校で開拓した事業所以外の希望がでてきたら、その希望する事業所に必死でアタックしたり、その希望にそった事業所を探そうと考えていた。しかし、そんな希望もあまりなかった。一番心配した「芸能の仕事」を希望する生徒もでてこなかった。実習先の紹介のときに、「芸能にかかわる仕事の実習先はありませんでした」と言うと、「そうだよね、オーディションを受けなくちゃね」と言う生徒がいる。さすが高校生、少しずつ社会や自分のことへの理解がすすんでいるのだなと感心をした。

そんな中で、どうしても「人のお世話をする仕事」をしたいという生徒がいた。特に保育園で仕事をしたいという希望があった。将来的につながるかどうか不安を感じながら体験先を探した生徒もいた。

2. 1回目と2回目の仕事、どちらが自分にあっている

一日社会見学実習は、2年次に2回ある(表2-1参照)。1回目の見学実習体験後、自分が体験した仕事の報告をしたり、友達に体験した仕事の話聞いた。そして、2回目の見学実習では、どんな仕事先に行きたいのかを考えた。その生徒の希望をもとに2回目は、家族や教員とよく相談しながら見学実習先の仕事を考えて。この一日社会見学実習では、生徒の進路先の選択の幅を広げることも大きなねらいである。生徒達の中には、自分が選んだ実習先でも、一日体験をしてみると、想像と違うことは多い。そんな生徒は、2回目の社会見学実習で当然違うところを希望してくる。それだけその生徒にとって、進路先の選択の幅が広がったのだ。また逆に、1回目の体験先が大変気に入って、2回目も同じ事業所に行きたいという生徒もいた。そして、1回目と同じような形で実習体験先を選択・決定して仕事を体験した。

2回の一日社会見学実習を終え、1回目的ことも合わせて思い起こさせながら、「1回目と2回目の見学実習では、自分にはどちらがあっていると思う」「どちらが好き」かを考えさせた。そして、なぜそう考えるのかもたずねてみた。生徒達の答えは、2回目の体験先が自分にあっていると答えた生徒が多かった。なかには、1回目の体験先を選んだ生徒もいた。生徒達は、以下のような様々な視点で自分

にあっていないのではないかという判断をだしていた。

「私はお菓子が好きだから、お菓子屋さんの方がいい」

「会社の人が親切だからいい」

「自分の好きなミシンの仕事ができそうだから…」

「2回目の仕事は、仕事が速くてついていけない。前の仕事のほうが自分にあっているように思う」

「どっちがあっているのかわからない」

「どっちもよかった」

「…」 e t c

これらの体験を土台にしながら、3年生での職場実習先の希望をださせ、進路先の選択・決定につなげている。

3. 進路先を決める職場実習先を自分で選択・決定

2年次の2回の一日社会見学実習を行い、そこでの体験を報告しあった。自分の体験したこと、友人の体験の報告などを資料にしながら卒業後の進路を考えてきた。そして、卒業後の進路先を決定する職場実習先の職種や仕事内容の希望をまとめてきた。

3年次になると、2年次にまとめた生徒の希望する職種や仕事内容にそって職場開拓を進めていく。3年次の職場実習先は、卒業後の進路先になることが多いので、十分に考える時間を与えたい。そのため実習可能な事業所は、なるべく早く知らせるようにしたいと考えた。また、実習可能な事業所を伝える方法も、生徒が理解できるようなものでないと、実習先を選択できるような情報にならないので、生徒にわかりやすい「実習先揭示カード」を作り(図2-6)、開拓でき次第に生徒に公表していくことにした。そのカードは、大学の求人カードをイメージして、次のような書式にした。

実習先名	
場 所	
実習できる人	男子 名、女子 名
勤務時間	
仕事内容	
写 真	

図2-6 実習先揭示カード

掲示カードは、職種ごとに紙の色を変えて掲示した。

ものをつくる仕事	：黄	食堂・レストランの仕事	：ピンク
ものをうる仕事	：赤	きれいにする仕事	：オレンジ
ものをはこぶ仕事	：黄緑	ひとのお世話をする仕事	：うす青
事務の仕事	：青	仕分けの仕事	：緑
芸能の仕事	：紫		

また、掲示カードの中になるべく仕事内容がわかる写真を入れるようにした。その写真は、教員が実習先の開拓のために訪問したときに、許される範囲で撮らせていただいたものである。仕事内容の写真は、仕事をしている様子の写真が多かったが、むしろ何をつくる仕事か、何にかかわっている仕事かがわかる写真の方が生徒の興味をひいたようである。たとえば、お弁当の会社であれば、その会社が作っているお弁当の写真。製本会社であれば、その会社で作っている雑誌の写真が掲示されていた方が、その商品にかかわれる仕事をやってみたいという思いになるようである。生徒達は、「僕は、少年ジャンプが好きだから、ここがいいな!!」とか、「こんなケーキを作りたいな」と言って実習先掲示カードを眺めていた。

この掲示カードは、実習できる人や勤務時間ということよりも、仕事内容を強調した方が、生徒の仕事に関する関心に合い、仕事を選択する情報として整理されていて良いのではと考え、次のように変更した(図2-7)。そして紙も、白地の画用紙に実習先名の部分だけ先に述べた色紙を貼り記入した。

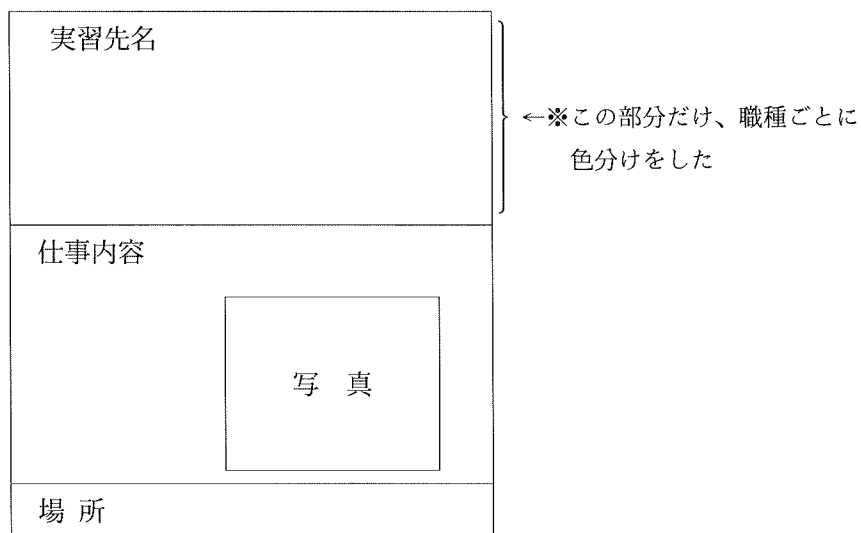


図2-7 簡略した実習先掲示カード

4. 職場実習先を選択・決定

職場実習先の選択・決定も、2年次の一日社会見学実習先の決定の授業の流れとほぼ同じである。その授業は、次のように行った(資料3)。まず、9つの仕事の種類を思い起こしながら、自分の希望する

仕事の種類を確認しながら、その希望する職種名のカードの横に自分の名前の紙を貼っていく。その下に、仕事の種類ごとに実習可能な事業所名や仕事内容等を説明しながら貼っていく。その実習先の説明を聞く生徒の反応は、2年次とかなり違ってくる。生徒の中には、すでに実習先の希望がはっきりしている子どももいて、早く自分の希望している実習先が紹介されないかなと待っている生徒もいる。

それは、2年次の一日社会見学実習先の選択とでは、仕事に対する情報の量とその選択肢の幅が全く違っているからである。2年次での2回の一日社会見学実習と、それに関する授業や進路面談、職場実習先の掲示カード等、その情報は豊富である。

全ての実習先が紹介された後、それぞれの仕事の種類ごとに、生徒の実習先の希望を聞いていく。そして、自分が希望する実習先のカードの下に、自分の名前のカードをつけていく。2年次の経験もあるので、あまり実習先の希望は重ならないで決まっていた。実習先が決まってガッツポーズをしている生徒もいた。

5. 希望をだしにくい生徒、難しい希望をだしてきた生徒への工夫

職場実習先の選択・決定を授業内でできない生徒もいる。そういう生徒には、授業後に実習先掲示板の希望する実習先のカードに自分の名札を貼らせるようにした。希望がなかなかまとまらない生徒は、掲示板の前で担任と話し合ったり、保護者と相談したりして、実習先の希望をはっきりとさせて自分の名札をつけていた。しかし、現実なかなか自分の気持ちがまとまらず希望がだしにくい生徒もいた。そんな生徒には、担任が何度も掲示板の前で丁寧に相談や助言をした。またその陰には、数多くの担任と保護者との連絡・相談があった。生徒は、そんな助言・相談を受けながらも、最終的には自分で希望する実習先のカードに自分の名札を貼ったという行為で、自分で決めたのだという強い思いになる。そんな生徒の自分で実習先を決めたのだという精神的なプロセスが、この実習先掲示カードで生み出されている。

そんな中で、一人とても難しい希望をだした生徒がいた。一日社会見学実習でも述べた、「人のお世話をする仕事」の中の保育園の仕事をどうしてもやりたいという希望の生徒である。進路先を決める職場実習先として、保育園の仕事があるかどうか悩みながらも、できるだけ本人の希望をかなえてあげたいということで、保育園の掃除や雑務ということをイメージしながら必死で開拓をした。最終的には、とても理解がある保育園に出会い、採用を前提にしての実習をしていただけることになった。今年の3年生の中で、この生徒以外では難しい希望や実習先カード以外の希望をだしてくる生徒はいなかった。しかし、もしかしたら、実習先可能なカード以外の希望をだせるような情報提供や、実習先を選択・決定する助言や相談の中に、生徒自身の希望をはっきりさせて言い表したりする配慮がまだ足りなかったのかもしれない。問題がでてこなかったことを良しとせず、問題がでてこなかったこと自体が問題ではないかと考え、今後の課題としていきたい。

資料3

3年進路の授業

『第一期職場実習先を決める』その1

設定にあたって

2年次の11月、2月の2回にわたって一日社会見学実習を行い、そこでの体験を報告しあった。自分の体験したこと、友人の体験を報告しあった。自分の体験したこと、友人の体験報告などを資料にしなが、卒業後の進路も考え、第一期職場実習先の希望をまとめてきている。

今回の授業は、これまでに実習可能となった事業所を開き、自分の希望の仕事ができそうなところがあるか考えさせていく。

日 時 5月20日(月) 1限
 場 所 集会室
 学習生徒 3年生徒全体 (計33名)
 本時の学習

- I. ねらい
1. 第一期職場実習までの学習の日程を知る
 2. 仕事の種類を思いおこし、第一期職場実習での職種の希望をだす
 3. 実習可能な事業所(会社、作業所)を開き、自分の希望と照らし合わせてみる
- II. 本時の授業展開

指 導 内 容	
導 入	<p>1. 第一期職場実習までの学習の日程を知る</p> <p>進路の行事予定表見ながら、第一期職場実習までの学習の日程を知る</p>
展 開	<p>2. 仕事の種類について思い起こす</p> <p>仕事の種類の紙を貼っていく</p> <p>・作る仕事 ・売る仕事 ・食堂・レストランの仕事 ・事務の仕事</p> <p>・仕分けの仕事 ・きれいにする仕事 ・運ぶ仕事</p> <p>3. 第一期職場実習ではどの仕事の種類がしたいか考える</p> <p>(1) 例として、いくつかの実習先を紹介して、仕事の種類の紙の下にはり、仕事の種類のイメージを持たせる</p> <p>(2) 一人一人が自分の希望する仕事の種類のカードの横に、自分の名前のカードを貼っていく</p> <p>4. 実習可能と言われた事業所(会社・作業所等)について、仕事内容や場所を知る</p> <p>実習先のカードを、仕事の種類の下に紹介しながら貼っていく</p> <p>(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 食堂・レストラン の仕事 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> A 子 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> B 子 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> C 男 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> D 子 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ○○フーズ 食器洗い ○○○○ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ○○レストラン 食器洗い ○○○○ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ○○チキン フライドチキン作り ○○○○ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ○○食堂 食器洗い ○○○○ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-left: 20px;"> ○○バーガー ハンバーガー作り ○○○○ </div> </div> <p>5. 実習可能な事業所の中に希望している仕事があるか考えてみる</p> <p>実習先が決まった生徒は、自分の名前のカードを実習先のカードの下に貼っていく</p>
ま と め	<p>6. 次回の進路の授業で第一期職場実習先を決定することを知らせる</p> <p>次回の進路の授業で第一期実習先を決定することを知らせ、それまでに考えさせる</p> <p>※掲示板を二階に移動させる</p>

第4節 実習・進路の決定事例報告

1. 強い本人の希望をとおした生徒の事例

(1) 3年生のKさんの場合

3年生のKさんは、四肢体幹機能障害があり体のバランスや手先の器用さに問題がある生徒である。そんな障害から、歩行が転びやすく、手先も不器用な生徒である。Kさんの実態を考えると、とても就職が難しいと思える生徒である。

そんなKさんは、2年生の一日社会見学実習の時、「人のお世話をする仕事」をしたいという希望をだしてきた。その中で、どうしても保育園の仕事をしたいという強い希望を持っていた。Kさんの希望にそって、一日社会見学実習は保育園で体験をした。

3年生になり、その希望はますます強くなっていた。保母の資格があるわけではないので、保育園の掃除や雑務ということで仕事がないだろうかと幾つかの保育園を訪問してお願いしてみた。しかし、就職につながりそうな保育園の実習先はなかなか見つからなかった。そこで、同じ「人をお世話をする仕事」として、特別養護老人ホームでの掃除の仕事はないだろうかと探してみた。そして、Kさんの住む区の特別養護老人ホームが実習を受け入れてくれることになった。おむつの洗濯を中心にしながら、おじいちゃんやおばあちゃんのお世話をする仕事だった。Kさんは、多少不満を持ちながらも、自分の希望をした「人のお世話をする仕事」ということで、意欲的に実習に取り組んだ。しかし、手が不器用ということもあって、おむつたたみに時間がかかり、そのうえ知的に障害がある人を雇用した経験がないことからの不安もあり、採用にいたらなかった。

第二期職場実習では、たとえ採用に至らなくても一番の希望であった保育園で実習をしたいというKさんやお母さんの希望で、再び保育園での実習先を探すことになった。いくつかの保育園を訪問するうちに、ある障害児保育に関心がある保育園に出会い、職場実習をさせていただくことになった。Kさんは、念願の保育園での仕事だったので、実習の前から学校で廊下や階段の掃除等を毎日朝早く登校して練習をしていた。そして保育園での仕事は、廊下や階段の掃除、おしぼりの洗濯や準備、玩具のクリーニングや整理等の掃除や雑務の仕事をはりきって取り組んだ。Kさんの自分のやりたい仕事ができているという喜びと意欲は、園長先生やまわりの園の先生達の気持ちを前向きにした。また、福祉施設が高齢者や障害者を雇用すると、労働省からの助成が得られることもあり、採用を前提に第三期職場実習を計画している。

(2) 卒業生Sさんの場合

Sさんは、仕事の紹介のビデオを見て、「食堂・レストランの仕事」をしたいという希望を持っていた。しかし、Sさんが通勤可能な食堂・レストランの職場実習先がなかったため、担任の教員と相談し

て、「作る仕事」の中のケーキを作っている会社の実習先を決め、実習の面接をすることになった。Sさんは、一応納得をしていたが、やはりレストランの仕事がしたかったようである。そして、ケーキを作っている会社の面接で、Sさんは緊張のために上手に受け答えができずに実習を断られてしまった。

このことを通して、Sさんはレストランで働きたいという気持ちの意思表示をはっきりするようになり、レストランの仕事を必死で開拓するようになった。それから、いくつかのレストランで実習が可能になり、最終的には家のすぐ近くのファミリーレストランで実習することになった。このファミリーレストランで、一期・二期の職場実習をして採用していただけることになった。Sさんは、採用が決まって大変喜んでいて。

しかし、勤めて1年あまりで、レストランでの仕事要求にSさんがついていけなくなってしまい、出勤拒否になってしまった。そんなSさんであったが、レストランで働きたいという希望は強く意欲があるため、レストランの本社の人事担当と相談して、あまり忙しくない店舗に変えてもらうことになった。それ以来、元気に働いている。

Sさんを通して、生徒の気持ちの中にやりたい仕事があることの大切さと、そういうものがあることによって、何かにつまずいても頑張れる力になることをあらためて実感させられた。

2. 希望する複数の事業所で実習をして選択をした事例

(1) 3年生のT君の場合

T君は、普通中学校の普通学級から本校に進学してきた生徒である。中学では、3年生から授業についていけないということや友達がいないう等の理由から不登校になってしまった。いろいろ進路を迷いながらも、担任の先生の強い推薦で本校に入学してきた。とても自信がない生徒で、入学のころは、精神的なことから欠席しがちであった。

高等部1年生の頃の卒業後の進路希望は、あまり卒業後に働くというイメージが持てないようだったが、3年生の職場実習先を参考にしながら、レストランの仕事を希望していた。しかし、仕事紹介のビデオを見るうちに、T君の趣味が音楽のCDを聞くということから、次第に「作る仕事」の中のCDを作る仕事をしたいという希望に変わっていった。

T君の希望にそって一日社会見学実習では、CDを包装する仕事をした。T君にとって、自分が大好きなCDにかかわれる仕事であるということと、その仕事が自分でできそうだという自信もつき、その仕事が大変気に入っていた。しかし、その一日社会見学実習の会社は、自宅から遠く通勤が難しいことからあきらめざるえなかった。そこで、第一期職場実習では、別のレコード会社で実習をすることになった。職場実習先での仕事内容は、各店舗に送るCD等を伝票を見ながら梱包する仕事だった。「作る仕事」ではなく、「仕分けの仕事」だったが、CDにかかわれる仕事だということでT君は大喜びをして2週間の実習をやり遂げた。

実習後T君に感想を聞くと、「CDを聞きながら仕事ができ楽しかったです。みんなやさしかった

です。会社の人と話すとおもしろかったです。」という感想の反面、「荷物が重くて大変でした。外国のCDばかりで、全然知らないものばかりだった。」という不満も話していた。そして、第二期職場実習では違う仕事の「食堂・レストランの仕事」を希望するようになった。学校では、T君のこの判断は少々わがままもあるのではないかと考え、もう少し自分の気持ちや進路希望をはっきりするように相談を続けたが、自信のないT君に無理強いはできないと考え、「食堂・レストランの仕事」で実習をすることになった。

第二期職場実習では、社員食堂の実習先を選び実習をした。仕事は、洗浄室で食器洗いの仕事をした。実習先での評価は良く内定も出そうであったが、実習を終えてT君は、やはりCDの会社に行きたいと言い出した。2ヵ所実習することによって、仕事はどこも大変なのだということがよくわかったのだろう。また、どんな仕事も重いものを持つことがあることを身にしみて感じたようである。

T君の気持ちがあきらかになったので、レコード会社へ積極的に雇用の相談を働きかけ、内定を頂くことになった。内定をもらったT君は、「もう迷わない ○○レコードでがんばって働きたい」と自信を持って話している。

(2) 卒業生のM君の場合

M君は、プラモデルや漫画本が大好きな生徒だった。仕事紹介のビデオを見た後の進路先希望は、「作る仕事」がしたいということだった。その「作る仕事」の中でもコンピュータのような機械を作る仕事がしたいという希望を持っていた。

M君のそんな希望にそって、一日社会見学実習では機械製造関係の仕事を経験した。そして、第一期職場実習では、コンピュータの部品を作る会社で実習をした。実習の後半になってM君は、遅刻や欠勤をするようになってしまった。それでも実習の評価は良く、就職が内定しそうであった。しかし、実習後に感想を聞くと、「あの会社は、何を作っているのかわからないので嫌だ」と言い出してしまった。そして改めて希望を聞くと、自分の愛読書である「少年ジャンプ」を作っている会社がいいと言い出し、実習可能な掲示カードの中に「少年ジャンプ」を作っている製本の会社があると主張してきた。

M君は、第二期職場実習をその「少年ジャンプ」を作っている製本会社で実習をして就職をした。この会社に就職をして6年が経つM君は、「みんなより少し早く『少年ジャンプ』が読める」と言って自慢げに働いている。